笑顔かがやく光っ子　みんなで育てる光っ子

学校便り

第３４２号
平成２７年６月１日

練馬区立光が丘第八小学校
校　長　　鈴　木　隆　志

脱ぎ捨てることの大切さ

校　長　　鈴木　隆志

私は、大人になってから（教員になった時から）、十年経ったらそれまでの自分を捨てて、一から考え直すことをモットーにしてきました。「十年一昔」という言葉もあります。十年経ったら時代も変わります。子供も変わります。それまでの指導方法ではうまくやっていけないと感じたからです。今までに四度、自分を捨て、思いを新たにして、教職を続けてきました。そのたびに、自分自身の中では成長もありましたし、自己啓発にもつながったと思っています。自分を捨てることは、簡単ではありません。授業の進め方、指名の仕方、板書の仕方、発表のさせ方、ノートやワークシート、宿題の出し方、学級通信の出し方、そして、子供との距離や接し方まで、原点に戻って考え直しました。捨てきれないものも多くありましたし、考え直しても結局同じだったこともありました。それでも、たくさんの自分を脱ぎ捨ててきたからこそ、今の自分があるのだと思っています。脱皮してよかったと思います。これからの自分の人生の中でも、あと数回は脱皮の時がくるだろうと予想しています。

大人なら十年に一度くらいの脱皮でも構わないと思いますが、成長が大きい子供たちにとっては、脱皮の時期は一年に一度、あるいはもっと短いスパンで訪れるものと考えています。新年度になって二ヶ月が経ちました。２年生は１年生から、３年生は２年生から、４年生は３年生からと、それぞれ進級して肩書きは変わっても、中身が変わりきれていない子もいるようです。学習への取り組み方、授業中の態度、話の聞き方、発表の仕方、ノートのとり方、宿題の仕方、挨拶や返事の仕方、集合の仕方、ボールの片付け方、友達との接し方等々、脱ぎ捨てるべき自分があるのにそのままでいる子がいます。脱皮のチャンスは４月とは限りません。脱ぎ捨てるべきものがあるならば、今からでも遅くありません。勇気をもって、自分を捨て、自分を高める努力をしてほしいと願っています。

「勇気」と「努力」と書きました。自分を変える、高めるためには、勇気と努力が欠かせません。「どうせボクなんて何をやってもダメなんだ」とか「どうせワタシなんて誰も構ってくれないわ」と考えていては、勇気をもてません。自分を信じ、一歩踏み出す勇気をもってほしいと願っています。そして、努力です。５月１０日の朝日新聞・声欄に、４８歳会社員の方からの投稿がありました。

同級生のサッカー少年は今

小学校２年で転入した静岡市の小学校の同じクラスにサッカー大好き少年がいた。「サッカーが強い清水から来たんだよね」。彼の第一声は今でも忘れない。

彼の自宅玄関には、裏がすり減ったスパイクが山積みだった。私が夜に小学校の横を通った時、暗闇の校庭で走り込む彼の姿があった。小４か小５の夏休み、「月の満ち欠けの観察」という自由課題を一緒にやった。彼は毎日、泥だらけのユニホームのまま我が家に来た。「将来何になる？」。何げなく聞くと「ブラジルでプロになる」。真剣な表情だった。

彼とはＪリーグ最年長得点記録を先月更新した三浦知良選手。本当にブラジルでプロになり、今日までの活躍はご存じの通り。努力で勝ち得た栄光に賛辞を惜しまない。頑張れ、我らのキングカズ！

私たちは、光っ子たちの勇気と努力を応援しています。そのために、それぞれの脱皮を手助けし、それぞれのよさを伸ばし、６年間かけてじっくりと育てていくという思いをもち続けています。